

平成30年7月20日

学校法人大原学園
大原医療福祉製菓専門学校梅田校
学校関係者評価委員会

平成30年度 学校関係者評価委員会議事録

- ・実施日 : 平成30年7月18日(水)
- ・実施場所 : 大原医療福祉製菓専門学校梅田校 2階図書室

【学校関係者評価委員】

林 努 氏(林歯科医院 院長)
田川 淳 氏(社会福祉法人 寿楽福祉会 吹田市立千里山西デイサービスセンター 所長)
山田 豊 氏(友誼会総合病院 事務長代行)
児嶋 悟 氏(ヒロ・マルイチ オーナー)
竹原 庸起子 氏(ひまわり法務F P事務所 代表行政書士)

【事務局】

重塚 悟 (大原医療福祉製菓専門学校梅田校 校長)
谷中 紀洋 (大原医療福祉製菓専門学校梅田校 専門課程・福祉教務部 介護・福祉課 課長)
高木 法子 (大原医療福祉製菓専門学校梅田校 専門課程・福祉教務部 医療・製菓課 課長)

1. 自己点検・評価の概要

大原医療福祉製菓専門学校梅田校の平成29年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。学校運営は、意思決定システムが確立されており、円滑な運営が行われている。また、教育理念に基づいた運営方針が明確に定められており、教育理念を達成するための事業計画の策定、各種研修制度の確立を通じて有為な人材育成が行えている。

昨年度は重点課題として「幸せな就職を実現するために、実学教育と人格育成教育をテーマとした就職教育の充実」「資格取得率の向上と実践的な知識習得」「留学生に対する指導体制の整備」「保護者との連携強化」の4点を中心に改善を図っている。

全国就職実績は、就職率98.9%と継続して高い実績を輩出することが出来ている。教育課程編成委員からの提言により、実学教育と人格育成教育を盛り込んだ教育ストーリーのブラッシュアップにより、多くの学生が内定先の特性に合った技能を身に付けることが出来ている。資格取得においても、引き続き高い合格率を維持することができている。

近年、増加している留学生の受け入れ体制・指導体制の整備も進めており、次年度以降で入学希望者が生じた場合に備えている。

また、保護者との連携においても、出席状況及び成績の月次報告発送や行事案内等の定期メール配信を行い、教育に対する理解浸透に努めた。

附帯教育授業としては、引き続き、幅広い年齢層に対し実社会に適応した教育サービスを提供することで、教育産業の責務・社会貢献を果たし、これらの実績に信頼を寄せて頂ける教育を提供したいと考えている。

なお、学校運営として、予算計画・執行は規定に従って適切に行なわれており、財務状況も安定している。

重点目標 1

「幸せな就職」を実現するために、実学教育と人格育成教育をテーマとした就職教育の充実

＜現状・達成指標＞

今年度も継続して内定率は十分な成果を上げることが出来ている。

学生個人の資質、適性、能力、属性を十分に考慮し、個人別に適した就職指導を実施すること、内定後の実態調査を行い、調査結果を精査の上、更なる満足度向上を図る

＜具体的方策＞

学生の社会常識・適性能力が低下傾向にあることから、入学直後から就職教育を実施している。社会常識を常に意識させ、学生から社会人へ早期の段階で成長させることで高い内定率を今後も維持する。

また、PCP 教育を通じて実学を学び、入社から 2～3 年後を想定した社会性を身に付け、即戦力となる人材を育成に取り組む。

＜学校関係者の評価・提言＞

- ・毎年、多くの大原卒業生が社会で活躍している。今後も社会に巣立つ大原生に期待している。
- ・実学教育と人格育成教育を、入学直後の段階から教育プログラムに組み込み教育を行うことによって、学生の社会常識・適性能力の低下に対応している点は評価できる。学生から社会人へ自立出来るよう教育内容を更に充実させ、社会貢献を果たせる人材育成教育を行って欲しい。
- ・本人の長所、特性を理解させ、それを振り返る機会を提供した上で、資格取得や進路を選択することで、即戦力として活躍できる人材を輩出して欲しい。
- ・実学教育について、改めて、教育ストーリーを点検し、ブラッシュアップして欲しい。

重点目標 2

資格取得率の向上と実践的な知識習得

＜現状・達成指標＞

資格取得実績は安定的に維持できている。一方で、検定試験の難度上昇など、受験対策の環境が変化している資格が増加傾向にある。

教員は、常に最新の知識、実務の情報とあわせて、高い指導力、講義力を身に付け、合格実績の更なる向上を図る。

＜具体的方策＞

企業等と連携し組織的に教員研修を実施し、教員のスキルを向上させる。

検定試験の難度上昇に対しては、各種検定試験の情報収集、教材およびカリキュラムの改定、指導方法の研究を継続的に行い、受験環境の変化に即時対応出来るよう指導方法の研究を継続する。

＜学校関係者の評価・提言＞

- ・単なる資格取得のみならず、実務を意識した教育を合わせて行うことで、座学と実学の両方を修得し、社会で即戦力となる実力を身に付けて欲しい。
- ・資格取得のみならず、実践的な技能を身に付けることができる教育を継続実施して欲しい。
- ・企業がおかれている環境は、めまぐるしく変化している。その変化に対応できるよう教員の指導力向上を更に進めて欲しい。

重点目標 3

留学生に対する指導体制の整備

<現状・達成指標>

資格取得のみならず、日本語補講や専門課程と同レベルでの個別相談の実施を予定している。希望者に対しては、就職斡旋も行う予定である。

<具体的方策>

留学生のニーズに合わせて複数の受け入れ可能なコースを設置している。

<学校関係者の評価・提言>

- ・今後、日本の労働人口は減少に歯止めが掛からないことから、優秀な留学生を社会に輩出することは、日本経済を支える意味でも重要になると思われる。教育ストーリーを更に充実させ、多くの留学生を社会に輩出して欲しい。

重点目標 4

保護者との連携強化

<現状・達成指標>

欠席超過、就職支援等、問題を抱えている学生について保護者に連絡を行い、連携して対処している。校内行事等にも参加頂き、安心と信頼の構築を図りたい。

<具体的方策>

保護者に対して、月次報告の発送、行事案内等を定期的にメール配信するなど、教育に対する更なる理解浸透を図る。

<学校関係者の評価・提言>

- ・保護者を巻き込んだ教育は、学生の成長を促すのに役立つと思われるので、今後とも関係各所と連携しながら、学生を成長させて頂きたい

2. 学校評価全体に対する評価

- ・自己評価結果については、適正であると評価できる。
- ・現状として、学生、保護者はもちろんのこと、学生を採用する企業でも大原医療福祉製菓専門学校梅田校では、良い教育を提供できていると思われる。
- ・社会の変化に対応した教育を提供すること、実学教育・人格育成教育を提供すること、専門性が高く社会で即戦力となる人材育成を担うことに変化はないが、現状に満足することなく、社会から専門学校に求められる知識・技能教育について、常により良い教育が出来るよう常にブラッシュアップを図ってほしい。

3. 学校関係者委員会総括

昨年度より製菓学科、介護福祉学科で留学生を受け入れ、今年度より日本語ビジネス学科を開講したこともあり、外国人の教育に関する意見が多くあった。それぞれの委員の立場から、期待を込めた貴重な意見をいただいた。

・医療機関では感染管理体制が厳しくなっている。学校としても感染管理のセミナーや研修等に参加する必要がある。

・今後は語学力やコミュニケーション能力のある人材が必要となってくるため学校としてしっかり教育をしていただきたい。

・介護では外国人労働者を受け入れているが、語学力・人間力はあっても記録が出来ないため書く能力の向上が課題。また、日本人が国際的な意識を学んでいく教育も必要なのではないか。

・製菓分野では留学生の雇用が難しいが、慢性的な人材不足を補うため洋菓子協会としても留学生雇用に関する働きかけを行っている。特にベトナム人は手先も器用で勤勉なので期待している。

・保護者との連携強化は重要だが、保護者が学生に干渉しすぎるのも良くない。今後、学生が一人立ち出来るよう、適切な連携が必要ではないか。

外国人教育については課題も多く、様々な意見を取り入れながら、大原医療福祉製菓専門学校梅田校が社会の信頼を益々得られるようにサポートして行きたいと思う。

以上